

病害虫防除技術情報第 11 号

平成 26 年 8 月 26 日

三重県病害虫防除所

ダイズにおける吸実性カメムシ類の薬剤防除を徹底しましょう

1. 対象作物：ダイズ

2. 対象病害虫名：吸実性カメムシ類(ミナミアオカメムシ、イチモンジカメムシ、ホソヘリカメムシ)

3. 発生状況

(1) 近年、伊勢平坦地域ではミナミアオカメムシの発生が急増しており、ダイズの被害粒(子実の萎縮、変形、変色)や、青立ち症状の発生が著しく増加しています。

(2) 予察灯(8月第1半旬～第4半旬・松阪市)での成虫誘殺数は、ミナミアオカメムシ 68 頭(4年平均 66.0 頭)と昨年並に多く(図)、イチモンジカメムシ 30 頭(平均 4.1 頭)、ホソヘリカメムシ 112 頭(7年平均 20.3 頭)と多い状況です。

(3) 水稻巡回調査(8月第2週・80地点 320 圃場)では、ミナミアオカメムシの発生圃場率 3.4%(4年平均 1.2%)、20 回振すくい取り虫数 0.07 頭(4年平均 0.02 頭)と昨年より多い状況です。

(4) 水稻成熟期調査(8月19日・13地点 51 圃場)では、圃場内でミナミアオカメムシの成幼虫の発生を確認し、昨年と同様に、今後のダイズへの飛来と発生量の急増が予想されました。

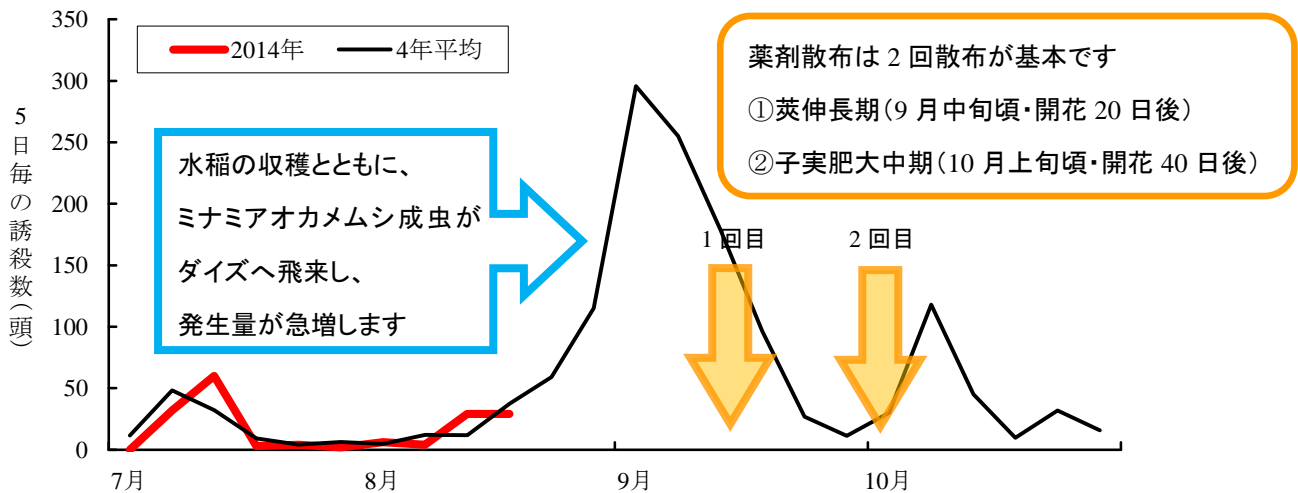


図 予察灯(7～10月)におけるミナミアオカメムシ成虫誘殺数の推移(松阪市)

4. 防除対策

(1) 薬剤散布は、①莢伸長期(9月中旬頃・開花 20 日後)と、②子実肥大中期(10月上旬頃・開花 40 日後)の 2 回散布を基本としてください(図)。

(2) 2 回散布ができない場合は、子実肥大初期(9月下旬頃・開花 30 日後)に必ず薬剤散布してください。

(3) 吸実性カメムシ類は移動性が高いため、無人ヘリなどによる広域での一斉防除が効果的です。

(4) エチプロロール剤およびジノテフラン剤は、ミナミアオカメムシの殺虫効果が高いことが確認されています。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。